

<今回>275回目 2020年2月14日(金)16時~18時 601号室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p141 2倍年暦はどこで終わる より

<前回>274回目(20-1-31) 出席者 9名

資料(20-01-17-1)前回のまとめ(清水)

ー2)干支表(清水)

ー3)日本書紀巻第9の補注(榛葉)

ー4)日本書紀継体天皇の崩御年(榛葉)

A 報告 「失われた九州王朝」の読み返しは難しいところに差し掛かってきた。丁寧に読んでいきたい。なお九州日田の博物館発行の図録が出てきた。それに曹操の墓から出た鉄鏡と類似のものという図が載っていたので回覧した。金、銀、宝石の装飾状況が良くわかる。

B資料ー2)私が横浜泉区に引っ越してきたときに地区の歴史愛好家の方がまとめた「歴史散歩独案内」から干支が随所にてきて、読み方や順序がさっとわからないという意見を受けてそこだけコピーしてきたもの。ー3)前回魏志倭人伝や百済3史からの引用について、年代上の錯乱があることはとすでに知っているとの古田先生の本の指摘に対して深く考えられた榛葉氏の日本書紀からの該当箇所である。神功66年晋の武帝の泰初2年は泰始2年の壺与の朝貢のことで、日本書紀は泰初と書き誤った。晋書と照合すれば泰始2年(266年)となる。角川は266年、朝日文庫は366年と誤記、単校本は266年、ミネルヴァ版は366年 ー4)継体天皇の崩御の年次について本文は継体 25 年(辛亥 531 年)説をとり、或文の説として継体 28 年(534年)説を併記し、後の人に良く考えてくれと書き残している有名な箇所である。本文は安閑天皇に継体が死んだ日に即位する国内伝承をとらず、3 年も空位ができる百済記に書いてある「日本天皇、太子、皇子俱に死す」という文を採用したと書いている。編者自身が納得してない書き方で古来議論の盛んな箇所である。この年次は高句麗王安がクーデターで殺された時(531 年)で年次がはっきりしている。一般論として日本書紀が国内伝承より海外史料を重んじた姿勢の反映としている。(ここで国内伝承とは近畿豪族内か、日本旧記という九州王朝記録を含むのか)

懇親会8名 津多屋17644円(2000・8) ー1644円

C 読書 p141 五王の正体

1)①倭人は正歳四節を知らず 但春耕秋収を計って年紀と為す(魏志倭人伝)(裴松之注所収魏略)。

②倭人寿考或いは八、九十、或いは百(魏志倭人伝) 古は2倍年暦と理解した。

2)天皇の寿命の最高は日本書紀では140才 古事記では168才である。編集者が漫然と長寿を造作したのではない。天皇寿命が古を尊ぶこと、偉い人ほど長生きすると言った観念で造作されたものではない。年齢の空白があるのは伝承でも、文書でも年齢がなかったからだ。原資料の年齢不存在を尊重している。

3)原資料は異質の世界(2倍年暦)の原資料そのものに依存している(古事記と日本書紀の原資料は別の物)(古事記は年齢は記すも年紀は書かず)

次回日程 20-2-28(金) 15時から18時 601号室

ー3-13(金) 15時から18時 305号室

ー3-27(金) 15時から18時 602号室